

# 生工研育成グラジオラス 「常陸あけぼの」栽培マニュアル

みんなで進めよう  
茨城農業改革

## 1. 品種特性



- 1) 花色は淡いオレンジ色で、紫赤のブロッチが入ります。花径7～8cmの中小輪系品種です。
- 2) 露地季咲き栽培でトラベラより2週間程度開花が早い極早生品種です。
- 3) 病害虫の発生は赤斑病に対してトラベラより強く、その他はトラベラと同程度です。
- 4) 季咲き、抑制いずれの作型でも栽培可能です。

2. 収量目標：2,500～3,000本/a

## 3. 球根の準備

- 1) 2～5等球で、10a当たり2.7～3万球を目安として購入します。
- 2) 入手球根はすぐに箱から取り出し、腐敗球を取除いてホーマイ水和剤に浸漬（200倍液30分）するかホーマイコートを粉衣（球根重の2～3%）します。
- 3) アザミウマ類防除のため、植え付け前にオルトラン水和剤に球根を浸漬（1,000倍液10分）します。
- 4) 抑制作型用球根は、球根消毒後2～4℃の冷蔵庫で、過湿を避けて貯蔵します。

## 4. 定植準備

- 1) 土質は特に選ばないが、日当たり、排水の良い圃場を選定します。
- 2) 保水、通気性を良くするため、プラウでの深耕や有機物の投入（2～3t/10a）を行います。水田では過湿を避けるため高畝とし、暗渠や明渠を設置することが望ましいです。
- 3) 同じ圃場では4～5年間は作付しません。やむを得ず連作する場合は、土壌消毒を行います。水田での栽培を積極的に取り入れ、イネとの輪作（2年間はつづけてイネを作る）を行う等の対策をとります。

## 5. 施肥

- 1) pH6.0を目標に土壌改良材を投入します。
- 2) 元肥は定植15日前までに施します。

- 3) 追肥は本葉2～3枚頃と本葉4～5枚頃、肥料が不足気味の時に施用します。

### ◆標準施肥量(単位:kg/a)

成分	総量	元肥	追肥	
窒素(N)	1.5	1.0	0.25	0.25
りん酸(P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	2.0	2.0	—	—
カリ(K <sub>2</sub> O)	2.0	1.5	0.25	0.25

## 6. 定植・栽培管理

- 1) 定植床を90～120cm幅とし、株間15cmの6～8条植えとします。4等球以下の小球では多少狭く、また、ハウスやトンネル栽培では株間を広くとります。
- 2) 高温期の定植では、冷蔵庫から出庫後、球根を日陰に1～2日置き、高温に馴化させてから定植します。
- 3) 発芽不揃いにならないように、定植後に十分灌水します。
- 4) 半促成栽培では定植後にマルチを張り、発芽後穴をあけて芽を出します。1～2葉期と5～6葉期は低温によってブラインドになりやすいので保温に注意します。発芽までは日中30℃、以後25℃を目標にし、出芽以降は十分な換気を図ります。トンネル除去は晩霜の無くなる頃の無風曇天日に行います。
- 5) ハウス抑制栽培では、新しいビニールを10月中旬頃までに被覆します。大球を用いた場合は1球当たり2～3芽発芽しますが、光線量確保のため必ず1芽に整理します。
- 6) 本葉4～5枚頃、土寄せやネット張りを行い、倒伏を防止します。

## 7. 病害虫防除・生理障害

- 1) 健全な球根を用い、連作を避け、窒素肥料をやりすぎないようにします。また、密植せず、排水を良くし、残渣を適切に処理します。
- 2) 赤斑病、ボトリチス病にはポリオキシシンAL水溶剤（2,500倍）を散布します。

## 8. 収穫・出荷

- 1) 切り前は第1～2小花の蕾が見え始めた頃ですが、高温期にはかために切ります。
- 2) 50本箱で出荷します。

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウス半促成	保温										球根サイズ	
トンネル半促成	□ (定植) ————— ■ (出荷)										2～3等球	
露地季咲き	□ (定植) ————— ■ (出荷)										2～3等球	
露地抑制	□ (定植) ————— ■ (出荷)										4～5等球	
ハウス抑制	◆ 球根冷蔵貯蔵 ◆ □ ～ 順次定植 ～ □ ——— ■ ～ 順次出荷 ～ ■										2～3等球	
	◆ ————— 球根冷蔵貯蔵 ————— ◆ □ ————— ■										2～3等球	

問い合わせ先

生物工学研究所 果樹・花き育種研究室 電話 0299(45)8330  
園芸研究所 花き研究室 電話 0299(45)8341

※記載の登録農薬はH19.2現在のものです。  
農薬は適正な使用を心がけましょう。